

## 将来をみすえた介護福祉教育（第6報）

### －「原則として医行為ではないと考えられる行為」に関する教授方法－

#### The Six Report of the Study on Coming Education for Care Workers － Focus on Teaching Plan for Non-medical Care －

井口 ひとみ・布施 千草

要旨：平成17年7月厚生労働省は、医療機関以外の高齢者介護・障害者介護の現場等において「原則として医行為ではないと考えられるもの」を提示し、通知をしている。それらを踏まえて当校では、「原則として医行為でないと考えられるもの」は、必須教科の介護技術演習で教授し、選択教科では「在宅における医療処置」として教育内容を整理して教授している。

「原則として医行為ではないと考えられるもの」は、病状が不安定であることや専門的な管理が必要な場合には医行為となることを踏まえると、介護福祉士が自らの業務として責任ある行動がとれるように解剖・生理的なことを理解する必要がある、その際には、「医療者が医療行為を行う際にたどる思考過程」を踏まえて教授する必要がある。今回は、介護福祉士が、利用者の日常生活の動作を整える役割ができることを目標に、「爪きり」の教授方法を検討した。

**Key Words** 「原則として医行為ではないと考えられる行為」、解剖・生理、思考過程、爪切り、利用者の日常生活

---

### はじめに

当校では、平成15年度から、選択教科の中で家族介護者が行う医療行為を支援するために看護技術を教えている。

平成17年7月厚生労働省は、医療機関以外の高齢者介護・障害者介護の現場等において「原則として医行為ではないと考えられるもの」を提示し、また病状が不安定であること等により専門的な管理が必要な場合には、医行為であるとされる場合もあるという通知をしている。それらを踏まえて当校では、「原則として医行為でないと考えられるもの」は、必須教科の介護技術演習で教授し、前述した選択教科では「在宅における医療処置」として教育内容を整理して教授している。第5報では、「原則として医行為ではないと考えられるもの」の項目であっても、病状が不安定であることや専門的な管理が必要な場合にはそれらのものも医行為となり、介護福祉士が自らの業務として責任ある行動がとれるように解剖・生理的なことを踏まえる必要があることを論じた。その際には、「医療者が医療行為を行う際にたどる思考過程」をとり教授する必要があると報告した。その視点で今回は、「爪きり」に関する教授方法の検討をしたので報告する。

### 1. 研究目的

日常生活における基本的な介護：介護技術項目「爪切り」の授業展開を考える。

## 2. 授業案

科目名：介護技術演習 I

単元：日常生活における基本的な介護：

介護技術項目「爪切り」の講義・演習（2時間）について

### （1）授業目標

- ① 利用者の爪の観察ができ、安全で安楽な「爪切り」の援助について理解できる。
- ② 介護福祉士と医療職との連携について理解できる。

### （2）授業方法

- ① 講義、演習、演習終了後グループワークとまとめを行う。（計3時間）
- ② 演習は、足浴と爪切りを実施する。

高齢者の多くは、爪が肥厚しているため、普通の爪切では皮膚が見えづらく、爪にひびが入るため安全に爪切りが実施できない。したがって、学生が安全な爪切りについて習得するためには、教材を選定する必要がある。そこで、爪切りは、ニッパを使用して演習を行う。個別性への対応としてニッパは、数種類を準備する。また、最も爪をきれいに整えることができるように、ガラス製のヤスリを使用する。（図1）

- ③ 演習終了後、利用者の立場、介護者を実施しての観察報告、気づきや学びについてレポート課題にする。

### （3）授業展開

まず、高齢者の足や爪についての特徴やその働きや目的について理解できるようにしていくことが必要であり、次に、「医療者が医療行為を行う際の思考過程」（表1）に沿って授業を展開していく。

#### ① 授業の導入

まず、対象である高齢者の足や手について考えることができるようにする。

学生が、どの程度に高齢者の足や、手に関する状態を認識しているのか知るために、発問する。

ここでは、高齢者の40～86%が足や手に何らかの問題をもっていることを理解できることが必要である。具体的に、高齢者の足の筋肉の萎縮があること、皮膚の弾力性が低下していること、足底の一部の皮膚が肥厚して硬くなっていることなどが理解できているか確認する。さらに、爪は硬くもろいことを理解しておくようにする。また、高齢者は、歩行障害や、ものを持ったりつかんだりすることの障害があることを理解できるようにする。

次に、高齢者の足に発生する皮膚潰瘍の原因疾患としては、閉塞性動脈硬化症と糖尿病が多いことを説明する。閉塞性動脈硬化症とはどのような疾患であるか説明する。例えば、病気が進行すると足では動脈の閉塞によりいつも冷たかったり、しびれたり、歩くと下腿の筋肉が痛くなるというように様々な症状が現れていくこと等について説明する。さらに、症状の初期の段階から重度の段階について理解できるように説明する。これらの疾

病が原因となり、足の先端の小さな傷や圧迫による血流の悪い場所から皮膚の潰瘍が生じ、治りが悪くなり、さらに悪化すると足の切断につながる恐れがあることを理解できるようにする。

以上を理解することにより、学生は高齢者の足の観察が重要であることを認識できると考える。症状の改善には、適切な治療を行う必要があることをおさえておく。講義の資料としては、糖尿病の方の皮膚潰瘍と閉塞性動脈硬化症による皮膚潰瘍の写真を提示して具体的にイメージできるようにした。

② 高齢者が、「歩く」ことを通して自立した生活をおくることが、ものを持つことや細かい手の作業ができることを通して自立した生活をおくることが重要であるということを理解できるようにする。そのために、「爪が重要な働き」をしているということを理解できるようにする。具体的には、下記の1)～5)について、説明する。

1) 爪は手足の先端を保護し、指の力を増加させ、触感を敏感にさせる。

手の爪は、ものを持ったり支えたりすることができる。

2) 爪は、細菌、アレルゲンなどを移動、伝播させる。

爪で搔きすぎると皮膚症状を悪化させることもある。

3) 足の爪は、足の先端にかかる負担のバランスと、身体全体の支えをする。

1本でも爪に障害があれば、正常に立ったり歩いたりするのが難しくなり、足の変形や障害を起こす。足の小指の爪も重要な働きをしている。小指の爪が小さくなっていると、歩行に力が入らず、かかとの外側に力が流れ前傾姿勢になる。さらに、転倒につながる場合もある。

4) 高齢者は筋肉が弱っているので0脚になりやすく、膝や腰を痛めやすい特徴がある。

5) 爪の構造について、図を用い、視覚的にその働きもあわせて理解できるようにする。

③ 医療者が医療行為を行う際の思考過程に沿って授業を進める。(表1)

1) 「爪切り」は、何のために行うのか(何を期待するのか)について発問する。

適切な「爪切り」は、利用者の足の変形や歩行の障害を予防し、手指の腹に加える力を支え、ものを持ち細かいものをつかめるようにする。また、爪の変形の予防と、シーツ類にひっかかりベッドから転落することの危険性を予防する。爪を切ることにより細菌感染の元にならないということが挙げられる。

一方、誤った爪切りや、手入れを怠って爪を伸ばし続けた場合は、爪の先端が靴にあたり、歩くたびに爪を形成する大切な部分(爪母)にダメージを与えてしまうのである。そのために、健康な爪を作れなくなり、伸びてくる爪は変形する。また、爪を伸ばした状態では、爪の裏側に汚れがたまりやすくなり、爪がぶつかって剥離する。剥離した部分に菌が入り、白癬や感染につながり、歩行が困難になり寝たきりの原因になるということを利用者の生活全体から考えられるようにしていく。

2) その行為の身体的な箇所の特徴はどうか。また、利用者はどんな病状か。どのような疾患をもっているのか。それによって影響することは何かについて発問する。

導入で講義したことに加えて、爪の特徴と働きについて図を用い、また学生自身の爪を観察しながら説明を行う。

足を観察するポイントは、動脈硬化等が原因で足の血行が悪くなっている可能性を考えて、皮下脂肪の萎縮はないか、筋肉の萎縮はないか、浮腫はないか、冷感はないか等である。その他、外傷、爪の肥厚、変形、爪周囲の炎症、爪は白く（白癬）になっていないか、爪がボロボロして（破損して）いないか等、爪の状態を観察する。さらに、足の裏や足趾の乾燥や硬化、胼胝（たこ）・鶏眼（うおのめ）はないか、自覚症状（かゆみ、痛み）についてはどうかなどが観察できるようにする。爪切りと関連して、利用者が自立した生活ができるために靴が足にあっていないか、靴下はきつくないかの観察をすることを説明する。単に、「爪切り」という介護技術の行為だけを意味するものではなく、高齢者の生活を意識した介護技術としての「爪切り」であることを理解できるようにすることが必要である。

爪や足の障害については、実際の文献の写真を提示する。

3) その行為に使用するものの特徴は何かについて発問する。

「爪切り」に使用するニッパは、大きな力をかけなくてもスムーズに切りやすいものである。（図1）そのため、深く一気に切ると誤って深爪になりやすく、また先端が鋭利なため操作を誤ると肉を刺してしまい出血の危険性があるという特徴がある。ガラス製ヤスリは、爪を傷つけにくい、よく削れるため、手技によって削りすぎるといふ特徴がある。また、ヤスリを落下させると破損するため、取り扱いには注意する必要がある。

ニッパの使い方のポイントとして、爪にいかにかみを入れずに切るかということが、重要であるということを強調する。そのためには、入浴後あるいは、手浴、足浴後の清潔で爪が柔らかくなった状態で行うことを説明する。ニッパを使用する際には、足指の肉を押し上げて行うと衝撃を和らげ、3mm以上の厚い爪を切る時は、爪の先端に斜めに刻み目を数カ所入れて横から切ること、ゆるいカーブにそって少しだけはみ出す程度に切り、スクエアオフカットにすること等を、図を用いて説明する。スクエアオフカットにする意味は、爪について、解剖・生理学的に理解できるように構造を示しながら説明する。ガラス製ヤスリは、爪の山の頂点を半分ずつ、2回に分けてかけ、本来の爪の形をしていない場合は、尖った部分にヤスリをかけて平らに整えると、少しずつもとの形に戻れることを説明する。



図1：爪切りに使用する器具

4) 利用者にとってどのような苦痛を伴うか。どのような危険が伴うかについて発問する。

間違った爪切りを行うことにより、巻き爪を発生させるなど歩行障害を発生させることや、シーツに引っかかり転倒することがある。また、間違った手技により出血や痛みを与えて感染を起こし、皮膚潰瘍を発生させることを再確認する。

5) 実施中に何か変化が起きた時の対応はどのようにするか。結果をどのように報告するか。について発問する。

実施中に出血した場合、傷の応急手当をして医療職に連絡する必要がある。爪がボロボロ（破損する）になってしまった場合は、白癬が疑われるため、途中で中止し皮膚科などの専門医の受診を勧める。

結果の報告は、爪のはじめの状態はどのようになっていたのか、実施したことはどのようなことか、実施後の結果は、どのようになったか、利用者の状態、痛み、出血の有無などについて記録し報告することを説明する。

6) 実施した行為が目的を果たしたかをどこから観察するのか。について発問する。

足の爪切りについては、靴を履いて歩行する際に痛みがないかを確認する。手の爪切りについては、手を握ったり、ものを持ったりするときに痛みがないか、力がきちんと入るか、細かい動作ができるかを確認する。

以上の、1) から6) まで、理解できるようにしていく。

表1 医療者が医療行為を行う際の思考過程

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1) 何のために行うのか。(何を期待するのか)。</li><li>2) その行為の身体的な箇所の特徴はどうか。また、利用者はどんな病状か。どのような疾患をもっているのか。それによって影響することは何か。</li><li>3) その行為に使用するものの特徴は何か。</li><li>4) 利用者にとってどのような苦痛を伴うか。どのような危険が伴うか。</li><li>5) 実施中に何か変化が起きたときの対応はどのようにするか。結果をどのように報告するか。</li><li>6) 実施した行為が目的を果たしたかをどこから観察するのか。</li></ol> |
|--|

#### ④演習後の学生の学び（主なもの）について（レポートから）

・爪を切るということは、歩行をしやすくしたり細菌感染を予防したりするために、とても大切なことであることがわかった。爪の切り方によって利用者の方の生活に関わってくることがあるので、しっかりとした心構えと知識で行わなければならないと思った。利用者一人一人が、異なる形の指・爪を持っているのでその方に適した爪切りをよく観察しながら行う必要があることを学んだ。そのためには、爪がその人にとってどのような役割を果たしているのかということを知ることが、利用者にとって安心して爪切りを任せさせていただくことができると思う。

・介護職が切ることのできない爪（巻き爪、変形した爪、糖尿病患者の爪など）を判断しなくてはならず、また足の状態も同時に確認しなくてはならないので爪切りを一つの作業として捉えるのではなく、利用者を意識して行う重要な行為だと実感した。

・爪は、日常動作を行う上でとても重要な役目をしているので、異常をすぐに発見する必要がある。足の変形や爪の変形等の異常を、そのままにしておくとも歩けなくなったりするのでしっかり観察することを学んだ。観察は少し難しいが、しっかり観察し必要があれば医療で治療できるようにすることが大切である。以上のように、さまざまな学びのなかから、今回のポイントをとらえていた。また、今回は学生同士の爪や足の観察であったが、人それぞれの足や爪の観察を丁寧に記録していたことが特徴的であった。

### ⑤グループワークとまとめ

学生を5人のグループに編成し、グループワークを行い、グループで思考過程1)－6)にそって確認ながら、演習での各自の学びの討議とまとめる作業を行い、発表の実施をした。

以上の一連の展開をしたまとめでは、適切な「爪切り」のケアが、高齢者の寝たきりなどの状態になることを予防し自立した生活を送るための支援の一つになる、ということを経位置付けた。「爪切り」という技術を通して、介護福祉士が高齢者の足や手の状態が観察でき、清潔・保湿のためのケアと合わせて適切に行うことで、転倒予防につながる援助行為となることを理解できるようにしていく必要があると考える。

## 3. まとめ

今回、当校において初めてニッパを使用して「爪切り」の介護技術項目の講義・演習を行った。学生は、ニッパやガラスヤスリをはじめて使用するという状況であった。授業の目標を達成するために、授業展開にそって一連の過程のなかで学習した。学生の学びのレポートからは、学生は、利用者役である学生同士の互いの爪を観察することを通して、歩くことや、履物について、感染についてなど、講義での学習を再確認できたと考える。グループ討議によって他の学生の学びを共有し、グループ内で思考過程にそって再確認作業を行ったことによって、学生レポートで述べられていた「爪切りを一つの作業として捉えるのではなく」利用者の日常生活動作を考えた行為として位置づけられたと考える。

介護職員の行う行為については、篠崎氏が「医師や看護師のような『幅』が、介護職員の行い得る行為にはなく限界があると述べているが、平成17年7月厚生労働省の通知により「爪切り」は「原則として医行為でないと考えられるもの」の項目としてあげられた。しかし、「爪切り」は、利用者の病状によっては医行為になる場合もあることを踏まえると、「原則として医行為ではないと考えられるもの」の項目であっても、介護学生が卒後、自らの業務として責任ある行動がとれるように、解剖・生理的な知識を踏まえて「医療者がたどる思考過程」にそって教授することが重要であると考え。同様に川角氏らも、「介護福祉士が行える医行為を実施するにあたり、必要不可欠な人体の整理・解剖・疾患などの知識や器具の使用方法、薬剤の知識などを介護と結びつけながら教育をする必要がある」と論じている。「爪切り」という行為を通して、足を観察することの意味づけが重要であり、利用者の日常生活の動作、ものをつかむことや、歩くこと等に障害を与えないような援助ができるように教授することが必要である。利用者の生活の身近にいる介護職が、よく観察し、触り、小さな足の傷や皮膚の変化をとらえ支援していくことが利用者の足を守り、手を守っていくことにつながるのである。その結果、利用者の安全性を確保した生活の援助が実施できる行為となり、自らの行為の限界を知り、医療職と連携することができる具体的な行動となっていくといえる。

## 4. おわりに

我々は、「原則として医行為ではないと考えられるもの」の項目であっても、病状が不安定であることや専門的な管理が必要な場合にはそれらのものも医行為となることを踏ま

え、介護福祉士が自らの業務として責任ある行動がとれるように解剖・生理的なことを理解したうえで教授する必要があると論じてきた。その際には、「医療者が医療行為を行う際にたどる思考過程」をとり教授する必要がある、今後も「原則として医行為ではないと考えられるもの」の教授方法についてさらに研究していきたいと考える。

## 参考文献

- 1) 日野原重明監修、2001、看護のための最新医学講座皮膚科疾患、中山書店.
- 2) 石塚百合子他、1998、看護診断にもとづく老人看護学 2、医学書院.
- 3) Karpman,R. R、1995、Foot problems in the geriatric patient,Clin Orthop,316:59.
- 4) 川角真弓他、2007、介護福祉実習における医療行為に関する一考察、介護福祉教育、71-75.
- 5) 加納智美、2006、高齢者糖尿病患者へのフットケア、臨床老年看護 Vol.13,No3,89-99.
- 6) 松本照喜、2003、おしゃれ障害、少年写真新聞社.
- 7) 水野美華、2006、高齢者糖尿病における合併症予防と看護のポイント、臨床老年看護 Vol.13,No3,78-82.
- 8) 宮川晴妃、2003、メディカルフットケアの技術、日本看護協会出版会.
- 9) 民間病院問題研究所、2000、介護現場の医療行為、日本医療企画.
- 10) 鈴木定、2006、高齢者のスキンケア、臨床老年看護 Vol.13,No3,69-77.